

第 22 回 地理情報システム学会 学術研究発表大会

期 日 : 2013 年 10 月 26 日 (土)

2012 年 10 月 27 日 (日)

場 所 : 慶應義塾大学 三田キャンパス (西校舎)

- * 機器展示案内 (P. 2)
- * 会場図 (P. 3)
- * 大会プログラム概要 26 日午前 (P. 4)
- * 26 日午後 (P. 5)
- * 27 日午前 (P. 6)
- * 27 日午後 (P. 7)
- * 企画セッション/ハンズオン・セッションのご案内 (P. 8-10)
- * ポスターセッション一覧 (P. 11)
- * ポスターセッション賞審査用紙 (P. 12)

懇親会 : ~~10 月 13 日~~ 10 月 26 日 18 : 30 ~ 20 : 30

場 所 : ザ・カフェテリア

(慶應義塾大学三田キャンパス 南校舎 4 階)

～当日の参加申込みは、正午過ぎから大会受付または 18 : 30 頃から直接会場で承ります～

機器展示案内 (受付順)

【 株式会社数理システム 】

展示: NUOPT (ニューオプト)

最適化ソフト NUOPT (ニューオプト) のご紹介を致します。

GIS と関連する分野としましては施設配置問題・配送計画問題等、答えを出すのに困難な問題に対して協力にサポート致します。

その他統計解析ツール S-PLUS やデータマイニングソフト Visual Mining Studio、テキストマイニングソフト Text Mining Studio も合わせてご紹介いたします。

【 ESRI ジャパン株式会社 】

展示: ArcGIS 10.2/ArcGIS Online/ArcGIS データコレクション

ArcGIS の最新バージョン 10.2 では、情報の可視化、分析、共有がより簡単に幅広い環境で行えるようになり、組織の地理情報プラットフォームとしてさまざまな場面で活用することができます。

また、ArcGIS Online では、GIS データの共有、編集、検索が可能です。

これらを ArcGIS データコレクションとともにデモンストレーションを交えてご紹介致します。

【 株式会社古今書院 】

展示: 『地域支援のためのコンパクト GIS』『図解 ArcGIS 10 Part2』ほか GIS 関連書籍

GIS 書籍の発行点数ナンバー 1 の出版社です。本学会の学術誌『GIS—理論と応用』の発売元にもなっています。今年も ArcGIS ver.10 に対応してリニューアルした『図解 ArcGIS 10 Part2』(川崎昭如・吉田聡著) など新刊が続々登場。GIS ビギナーからミドルユーザまで、利用目的に応じた数々の書籍を展示し、すべて 15% 引で販売します。出版企画のご相談も大歓迎です。

【 株式会社インフォマティクス 】

展示: 空間情報システム SIS 7.1

空間情報クラウドコンピューティング GEO CLOUD

株式会社インフォマティクスの汎用 GIS ソフト「空間情報システム SIS 7.1」と「空間情報クラウドコンピューティング GEO CLOUD」サービスおよびモバイル端末を展示します。

【 FOSS4G 分科会 】

展示: QGIS2.0 OSGeoLive

近年国内でも利用が増えている QGIS の新バージョン 2.0 を展示します。

また多くのオープンソース GIS が格納されている LiveDVD OSGeoLive の実演と配布を行います。

【 オートデスク株式会社 】

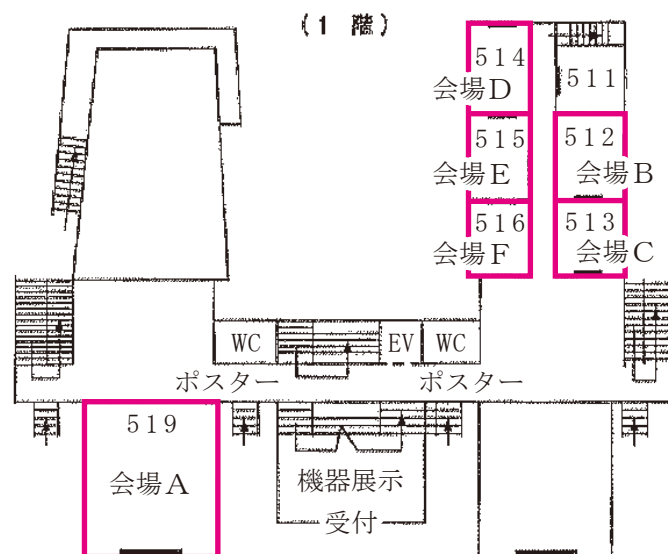
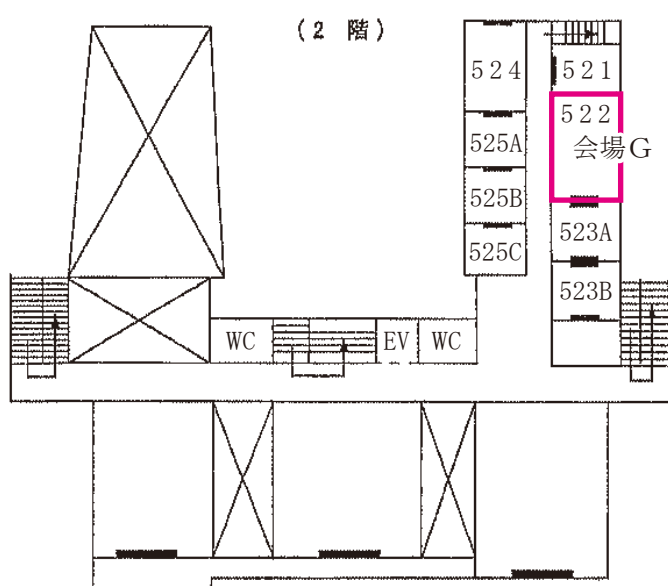
展示: Autodesk Infrastructure Design Suite

3次元 GIS と 3次元 CAD との連携による CIM (Construction Information Modeling) を支援するツールを紹介いたします。

会場図



西校舎 (メイン会場)



◆ 大会プログラム概要 ◆

司会は各セッションの最終発表者です

参加費無料のセッション

10月26日(土)9:30-11:10

会場A (519教室)	会場B (512教室)	会場C (513教室)	会場D (514教室)	会場E (515教室)	会場F (516教室)	会場G (522教室)
企画セッション1	歴史・考古 B-1	景観 C-1	システム構築1 D-1	自然・環境1 E-1	防災1 F-1	
レジリエントな 国土・地域社会 の構築のための 地理空間情報 の活用	西南関東地域における 縄文時代の遺跡立地選 択 加藤 晋	【9:50開始】	【9:50開始】	【9:50開始】	何月何曜日何時限に大 地震が発生した場合の 大学キャンパス帰宅困 難学生の概数推定方法 岡部 篤行, 岩沢 愛, 杉 浦 勢之	
オーガナイザー: 小荒井 衛	大阪・梅田にみる都市の 近代化 西本 貴洋, 吉川 真, 田 中 一成	距離知覚に着目した夜 間景観の分析方法 堤 博紀, 田中 一成, 吉 川 真	多分野協働のための水 循環GISプラットフォーム の構築 佐藤 裕一, 佐土原 聡	日本列島の流域区分と 中央分水嶺の抽出 ― 中央分水嶺ロングトレ イル構想に向けて― 原 雄一, 片山 篤	積雪寒冷地におけるGPS を援用した津波避難に 関する行動分析 ― 北海 道釧路市を事例として ― 奥野 祐介, 橋本 雄一, 深田 秀実	
※詳細 8ページ	考古学における情報共 有の試み 市川 創	BIMとGISの連携による 景観デザインに関する 研究 藤澤 範好, 宮崎 隆昌, 中澤 公伯	自治体の事業推進のた めの業務支援システム の導入 村崎 充弘, 吉兼 理説, 澤田 石 智紀, 山本 武文, 野口 良彦, 下山 奈緒, 栗原 徹, 富田 正裕	地形プロセスモデルによ る山地流域の分類手法 の検討 池見 洋明	東京都帰宅困難者対策 条例のもとでの帰宅意 思率の推定 濱田 時彦, 大佛 俊泰	
	史料に基づく高松の景 観復元 高橋 良尚, 吉川 真, 田 中 一成	街路におけるシーケン スと隙間空間 中山 雅淑, 田中 一成, 吉川 真	HTML5を用いた交通事 故報告作図システムの 開発 根元 裕樹, 奥野 守	空間情報を伴った農業 情報の流通と利用 ― 情報利用者の視点から の考察― 川向 肇, 加藤 雅宣	津波被災地における集 団移転による暮らしへの 影響の評価 ―宮城県気 仙沼市を事例として― 金森 貴洋, 吉次 翼, 敵 網林	
	明治初期の村ポリゴン データの作成とその分析 奥貫 圭一, 溝口 常俊, 森田 匡俊, 服部 亜由未, 平松 晃一	市街地の緑環境と景観 分析 村野 大智, 吉川 真, 田 中 一成 司会: 大佛 俊泰	オフライン対応型マイ セルGISを用いた津波避難 支援システムの評価 ― 北海道小樽市を実験 フィールドとして― 深田 秀実 , 橋本 雄一, 赤瀬 明寛, 沖 親行, 奥 野 祐介	正規化植生指数を用い た人口と緑被との関係 性に関する研究 小林 優介	津波避難評価シミュレ ーションの開発と地域防災 活動への導入 畑山 満則 , 中居 楓子	

10月26日(土)11:20-13:00

企画セッション2	企画セッション7	解析理論 C-2	システム構築2 D-2	自然・環境2 E-2	自治体・市民参加 F-2	ポスター紹介
災害対応にお けるGISの利活 用の新たな可 能性を探る	学校教育におけるGIS教 材の共有化	メッシュ統計データを用 いた都市の拠点抽出手 法およびツールの開発 石井 儀光, 阪田 知彦, 栗石 和利, 杉木 直	来店イベントの自動取得 と共有による飲食店推 薦システムの提案 少路 健太, 木貫 新一, 笹尾 知世, 大野 航	都市域における植生景 観の立地特性に関する 研究 宮本 慧, 田中 貴宏, 大 野 啓一, 佐藤 裕一, 佐 土原 聡	京都地籍図を用いた京 都市における大正期と の地価分布変動 青木 和人, 武田 幸司, 伊東 大悟	
オーガナイザー: 畑山 満則	オーガナイザー: 酒井 高正	隣接関係に着目した土 地利用の時空間分析 水谷 千亜紀, ロナルド エストケ, 村山 祐司	利用パターンと周辺環境 に基づく場所推薦シス テムの提案 笹尾 知世, 木貫 新一, 大野 航, 少路 健太	高層ビル群による海風の 阻害がヒートアイランド 現象に及ぼす影響の評 価 指山 昇太, 山本 佳世子	参加型GIS向けトレー ニングキットの日本での 適用可能性 山下 潤	
		居住者の時空間分布に 基づく地域間距離の都 市モデルへの適用 村上 彩夏, 大佛 俊泰	マルチモニタによる没入 型3次元景観表示シス テムの実現に向けて 藤本 泰裕, 北村 裕介, 曾 鑫, 荒木 俊輔, 碓 崎 賢一	土地利用の変遷と自然 災害リスクの変化に関 する研究 月原 雅貴, 三谷 泰裕, 池見 洋明, 村岡 直紀	CKANとWebマップを用 いた多様なデータと活用 事例を提供するプラッ トフォームの試作―アー バンデータチャレンジ東 京2013を事例に― 瀬戸 寿一, 樫山 武浩, 関本 義秀, 西沢 明	
※詳細 8ページ	※詳細 9ページ	地理情報科学における 論文情報および用語集 を用いた主題の特徴化 小野 雅史, 柴崎 亮介	都市災害情報の共有支 援のためのソーシャル メディアGISの構築 村越 拓真, 山本 佳世子	XバンドMPLレーダ雨量 情報のWebGISへの活用 西尾 雅弘, 森 正寿	参加型GISにおけるGIS 活用の心理的側面に 関する考察 今井 修	(ポスターセッ ションコアタイ ムは、別会場 で14:30まで)
		空間乖離構造を評価す る新たな手法の提案 貞広 幸雄 , Seong-Yun Hong	試験運用を踏まえた野 外調査記録作成支援ソ フトウェアの機能強化 原田 豊 , 齊藤 知範, 山根 由子, 細田 耕一, 雨宮 護	チリウン・チサダネ川流 域における土地利用変 化と地形条件との関係 山下 亜紀郎		※詳細 11ページ

10月26日(土) 14:30-16:10

会場A (519教室)	会場B (512教室)	会場C (513教室)	会場D (514教室)	会場E (515教室)	会場F (516教室)	会場G (522教室)
企画セッション3	企画セッション8	移動1 C-3	システム構築3 D-3	自然・環境3 E-3	データベース構築1 F-3	ハンズオンセッション
災害デジタルアーカイブと空間情報～東日本大震災の被災地による被災地のためのアーカイブ支援～ 1	空間解析入門	データ同化手法を用いた集計データによる都市圏レベルの人の流動推定 戸井田 亮祐, 関本 義秀, 金杉 洋, 檜山 武浩, 柴崎 亮介	GIT教育支援ツール (gittok) の開発 太田 守重	タシメント地域におけるGISを活用した水マネジメントに関する研究 森田 淳史, 三谷 泰浩, 池見 洋明, Khurshidbek Makhmudov	2010年国勢調査小地域統計のオープン・アトラスの作成・公開 佐谷 岳穂, 矢野 桂司, 中谷 友樹, Alex Singleton, Christopher Brunsdon	ハンズオンセッション1: 都市計画とFOSS4G
オーガナイザー: 長坂 俊成	オーガナイザー: 貞広 幸雄	遺伝的アルゴリズムを用いた地震災害下における避難経路探索法の開発 志村 雄一郎, 山本 佳世子	GISを活用した鉄道沿線設備管理手法の構築 丸本 広志, 北岡 栄一, 徳田 浩一郎, 長船 秀樹, 中山 忠雅, 谷 睦晃	オオワシ・オジロワシによる海からの栄養物質輸送 松本 経, 高橋 修平, 中山 恵介	Mapping the surface temperature change in Hokkaido from 1950-2000 Shenyan Zhang, Wangling Yan	オーガナイザー: 馬場 美彦
※詳細 8ページ	※詳細 9ページ	GISを用いたリアルタイムの出入港船舶支援システムの基礎的研究 柳 馨竹, 塩谷 茂明, 笹健児	列車の混雑情報に基づく参加型行動シナリオ推薦システムの提案 大野 航, 木貫 新一, 笹尾 知世, 少路 健太	圃場情報管理システムとしての地理情報システムの活用について 藪西 史文, 川向 肇, 鷲尾 信彦	人々の流動再現へ向けたオープンな鉄道インフラデータの構築 金杉 洋, 関本 義秀, 檜山 武浩	※詳細 10ページ
		商圏の何が小さくなったのか? 「人の流れデータ」から見た小商圏下の買物行動 鈴木 英之, 関本 義秀	道路維持管理の現場利用を考慮した道路情報プラットフォームの設計と実装 坂本 大介, 窪田 諭, 市川 尚, 阿部 昭博	火山露頭情報データベースのためのメタデータ編集ツールの開発 高橋 伸弥, 奥村 勝, 鶴田 直之	広域地震災害の被害想定のための日本全土における建物単体データの開発 小川 芳樹, 秋山 祐樹, 仙石 裕明, 柴崎 亮介	
			道路管理用情報共有プラットフォームの構築 小原 弘志, 増田 祐介, 今井 龍一	ランドスケープ特性評価の視点から見た日本の地域特性区分 西原 優, 小荒井 衛, 水内 佑輔, 野嶋 太智	全国町丁字変遷データの構築と防災応用 角本 豊, 小西 純, 古戸 孝	

10月26日(土) 16:20-18:00

企画セッション3	企画セッション9	移動2 C-4	ネットワーク空間分析 D-4	可視化 E-4	データベース構築2 F-4
災害デジタルアーカイブと空間情報～東日本大震災の被災地による被災地のためのアーカイブ支援～ 2	時空間データの形態変換の最前線	2地点間徒歩移動時における経路選択記述モデル 田中 あずさ, 大佛 俊泰	ソーシャルメディアを利用した鉄道ネットワークに基づく景観資源の評価と発見 中嶋 俊輔, 吉川 真, 清水 智弘, 中山 忠雅	Spatio-temporal analysis of physical interactions derived from a social network site Tetsuo Kobayashi	MMS点群データを対象とした3次元プリントシステムの実現に向けて 中條 雅裕, 北村 裕介, 曾 鑫, 荒木 俊輔, 碓崎 賢一
オーガナイザー: 長坂 俊成	オーガナイザー: 堤 盛人	CDRsデータを用いたダッカの人の流動把握 長谷川 瑠子, 関本 義秀, 金杉 洋, 新井 亜弓, Teerayut Horanont, Apichon Witayangkurn	ネットワーク上における柔軟な形状を持つ点事象集積領域の抽出法提案 井上 亮, 古郡 美佳	新型インフルエンザ流行時における学校閉鎖措置の時空間的パターン: 2009-2010年シーズンの茨城県における公立小中学校の学校閉鎖措置に注目して 永田 彰平, 中谷 友樹	デジタル電話帳データを用いた店舗・事業所の時系列データ構築と分析手法の研究 水野 弘規, 秋山 祐樹, 柴崎 亮介
※詳細 8ページ	※詳細 9ページ	GPSデータを用いた災害時の目的地や経路の選択に関する行動分析 若生 凌, 関本 義秀	地域ベースのデータをネットワークベースのデータにGIS環境下で変換する手法とその適用例 森岡 渉, 岡部 篤行	ソーシャルメディアを用いた景観現象の分析～大名庭園における試み～ 大野 陽一, 吉川 真, 田中 一成	データ活用のためのメタ情報を考慮した地理情報システム向けデータベースの提案 奥村 勝, 高橋 伸弥, 鶴田 直之
		携帯電話のGPSログデータを用いた人々の行動パターンの分類 西村 隆宏, 秋山 祐樹, Teerayut Horanont, 柴崎 亮介, 関本 義秀	ネットワークボロノイによる北海道太平洋沿岸地域の積雪期津波避難圏に関する空間分析 橋本 雄一	地理空間情報との関連でみた空間的思考力の構成とその規定因 若林 芳樹	官民連携による大縮尺道路地図の整備・更新手法の取り組み 今井 龍一, 深田 雅之, 重高 浩一
		大規模災害発生時における徒歩帰宅グループニング手法の提案 森田 匠俊, 小林 哲郎, 奥貫 圭一			道路基盤地図情報の試行提供による産学の利用ニーズの調査 今井 龍一, 松井 暁, 重高 浩一, 佐々木 洋一

10月26日(土) 18:30-20:30

懇親会 : 「ザ・カフェテリア」(南校舎4階) (会長挨拶, 表彰式, 開催校挨拶, 次回開催校紹介等)

10月27日(日)9:00-10:40

会場A (519教室)	会場B (512教室)	会場C (513教室)	会場D (514教室)	会場E (515教室)	会場F (516教室)	会場G (522教室)
企画セッション4	施設配置1 B-5	商業・経済 C-5	地域分析1 D-5	データ精度1 E-5	防災2 F-5	
学生必見！ オープンデータ で本気で日本 を動かそうとし てる奴ら一起 業家から元役 人まで—	【9:20開始】	詳細な地理情報やWEB から収集したデータを用 いた商店街の特性分類	カーネル密度推定法を 用いたソマリア周辺海域 における海賊活動の空 間分析 永田 康宏, 渡部 大輔, 鳥海 重喜	建物築年数の推定に関 する研究 池田 健虎, 仙石 裕明, 秋山 祐樹, 柴崎 亮介	【9:20開始】	
	通信販売の拡大による 競合店舗の均衡配置と 非競合店舗の最適配置 の変化 小澤 誠明, 岸本 達也	地域の食品店分布を 考慮した、買物環境の評 価指標とその分析 関口 達也, 貞広 幸雄	パーソントリップデータ を活用した対人犯罪の地 域別・時間帯別被害リス クの推定 雨宮 護	小地域における将来人 口推計手法および世帯 構成の最適分配に関す る研究 仲宗根 悠馬, 秋山 祐樹, 仙石 裕明, 柴崎 亮介	「防災に役立つ情報GIS」 の有効性についての 研究 荒川 宏, 市橋 利裕, 田 所 健二, 江崎 伸一, 野 田 康司	
オーガナイザー: 嘉山 陽一	逆探索とZDDを用いた避 難所の地域割り当てパ タンの列挙 瀧澤 重志, 武知 祥史, 大田 章雄, 加藤 直樹	千葉県における小売店 舗の立地の分析 柴田 弘毅, 高橋 孝明	地下公共空間における 歩行者の滞留行動と空 間構造の関係 松尾 佳津史, 田中 一成, 吉川 真	固有ベクトル空間フィル タリングを用いて空間的 依存性を考慮した多項 離散選択モデル 吉田 崇紘, 堤 盛人	オープンソースGISを用 いた被災情報共有シス テムの提案 窪田 諭, 松村 一保, 矢 野 定男, 北谷 龍弥, 徳 永 隆行, 崎山 良三, 北	
	※詳細 8ページ	二次保健医療圏におけ る公的医療施設の立地 —配分分析:新潟県上 越医療圏の事例— 相羽 良寿	大規模人流データを用 いた商業地域における 来訪者数の時系列分析 秋山 祐樹, Teerayut Horanont, 柴崎 亮介	神戸・北野界隈の地域 分析 仲谷 恭平, 吉川 真, 田 中 一成	地理空間情報の平面位 置正確度の評価 小清水 寛, 村上 真幸	高等学校地理AIにおけ るGISを活用した防災教育 教材提案—東京都西東 京市を事例として— 室谷 栄里
	周期的人口分布変動と 施設配置 鈴木 勉	局所空間統計量を用い た日本の経済集積の空 間分析 藤季 和樹, 堤 盛人	街頭防犯カメラがひた つくりの発生に与える影響 島田 貴仁	混雑度の精度検証方法 に関する基礎検討 坂本 憲昭, 森 博美, 長 谷川 普一	災害の視点から見た日 本の地理的地域特性区 分 小荒井 健, 中埜 貴元, 芮 京禄	

10月27日(日)10:50-12:30

企画セッション5	施設配置2 B-6	データ取得 C-6	地域分析2 D-6	データ精度2 E-6	防災3 F-6	ハンズオンセッ ション
オープンデータ と自治体GIS	へき地医療問題に関す る医療施設の空間分析 三好 達也, 橋本 雄一	MMSデータを用いた建 物3Dモデルの壁面生成 手法 曾 鑫, 荒木 俊輔, 碓崎 賢一	太陽光発電導入の経済 性評価方法 岩崎 康志	線分検出による建物ポリ ゴンデータの生成 仙石 裕明, 池田 健虎, 秋山 祐樹, 柴崎 亮介	大地震時における道路 閉塞情報の獲得が緊急 車両到着時間短縮に及 ぼす影響 廣川 典昭, 大佛 俊泰	ハンズオンセッ ション2: PythonでGIS
オーガナイザー: 青木 和人	事業所の業種間交代と その立地について—東京 都八王子市を事例として— 森 博美, 坂本 憲昭, 高 橋 朋一	駅空間におけるサインに 着目した屋内測位技術 の検討 清水 智弘, 吉川 真	地区特性と居住者ミッ クスの関係に関する分析 上杉 昌也, 浅見 泰司	グリッドモデルによる町 丁別人口の面補間 小西 純	住民ワークショップによ るSWOT分析と震災復興 計画の策定の試み 飯 網林, 小林 知記, 大 場 章弘, ウィリアム ガロ ウエイ, 中田 健太郎, 池 下智之, 村杉 汐音	オーガナイザー・ 講師: 小林 哲郎
	※詳細 9ページ	人口減少下でのアクセ ス系局統合のための随 意性を考慮した動的モ デル 中山 悠	高層建築物の壁面構造 の反復に着目した航空 写真からの壁面テクス チャ抽出方式 北村 裕介, 碓崎 賢一, 荒木 俊輔, 曾 鑫	水道栓の開栓状況に基 づいた建物分布の広域 的な分析 小松 誠直, 熊谷 樹一郎, 大谷 由紀子, 杉山 茂一	不完全な追跡データに 基づく移動経路と滞在時 間の確率的推定手法の 検討 島崎 彦人	※詳細 10ページ
		Googleストリートビュー のパノラマ画像を利用し た天空率算出システム 西尾 尚子, 伊藤 史子	GIS分析による人口変化 からみる上海市の都市 開発 任 海	メッシュ統計データに対 する測地系変換におけ る変換誤差の地域的傾 向 飯田 知彦	地域防災を支援する情 報システム「地域防災 キット」の開発 田口 仁, 李 泰榮, 白田 祐一郎, 長坂 俊成	
		3次元建物モデルの自 動生成システムで用いる Straight Skeleton手法 杉原 健二, 沈 振江	居住者属性と土地被覆 情報を用いた建物用途 を含む土地利用把握 相 尚彦, 貞広 幸雄			

10月27日(日)13:40-15:40

会場A (519教室)	会場B (512教室)	会場C (513教室)	会場D (514教室)	会場E (515教室)	会場F (516教室)	会場G (522教室)
企画セッション6	企画セッション10	観光 C-7	地域分析3 D-7	データ精度3 E-7	防災4 F-7	
産学連携によるマイクロジオデータの普及と利活用可能性	GISCA	観光者の関心点に対する空間統計・円周統計の応用	女性医師の地域的分布とキャリア支援に関する研究	オンライン上のコラボレーションを利用したオープンストリートマップ上の地理情報の充実	自動車利用者の時空間分布からみた大地震時の様相に関する考察	
オーガナイザー: 秋山 祐樹	オーガナイザー: 太田 守重	杉本 興運	烏山 芳織, 落合 豊子, 関根 智子	関 治之, Daniel Kastl, 金 杉 洋, 関本 義秀	沖 拓弥, 大佛 俊泰	
		位置情報付きツイッター投稿データにみるユーザー行動の基本的特徴—観光行動分析への利用可能性—	時空間的街区特性から見た住宅用太陽光発電導入ポテンシャルの評価	東日本大震災時におけるメディア情報・地域SNS・Twitterによる情報空白域の空間精度の評価	東日本大震災の津波遡上境界線から得られた岩手県における遡上高の地域特性	
		桐村 喬	小林 知記, 巖 網林, 仙石 裕明	酒井 聡一, 後藤 真太郎, 小川 祐樹, 山本 仁志, 和崎 宏, 鳥海 不二夫, 五味 壮平, 吉田 等明	柳川 竜一, 堺 茂樹, 越野 修三	
※詳細 9ページ	※詳細 10ページ	観光スポットの推薦を目的としたソーシャルレコメンドGISの構築	出生順位別にみた子育て世帯の居住地分布—三大都市圏での比較から—	Assessing the accuracy of satellite-derived land cover maps classified using a hybrid pixel-based and object-based image analysis technique	KMLを用いた震災復興支援に関する研究	
		池田 幸, 山本 佳世子	佐藤 将	Ronald Estoque, Yuji Murayama and Chiaki Mizutani	物部 寛太郎, 徳永 幸之	
		観光への空間情報科学の援用—阿賀町の観光資源を中心に—	都市計画区域における土地利用・建物の用途規制と居住構造の関係—国勢調査小地域集計による分析—	遺構情報モデルにおける不確かな時間属性の取り扱いについて	マクロスケールにおける「津波からの避難のしやすさ」の評価—アクセシビリティに基づくエバキュエータビリティ指標の構築と測定—	
		波田野 咲希, 杉崎 茜, 山本 靖	章野 邦明	村屋 吉重, 碓井 照子, 森本 晋, 清水 啓治, 清野 陽一, 藤本 悠, 玉置 三紀夫	田中 耕市, 駒木 伸比古, 貝沼 恵美	
		観光ポテンシャルマップの信頼性向上に向けて—ソースとなる投稿写真データの自動選別ルール構築—				
		倉田 隆平				

10月27日(日)15:50-16:10

閉会式
(優秀発表賞の表彰を含む)

G空間EXPO2013 開催のお知らせ

「地理空間情報科学で未来をつくる」

- * G空間EXPOメッセージゾーン 「現在地を知る」最先端の技術を知る場
- * 地理空間情報フォーラム 「現在地のはかり方」最先端の技術を知る場
- * Geoアクティビティフェスタ 「これからの現在地」新たなアイデア・技術に触れる場
- * Geoエデュケーションプログラム 「現在地を学ぶ」G空間を楽しく理解する場
- * 講演・シンポジウム等 G空間社会を支える研究成果発表、業界・技術動向の紹介

会期 : 2013年11月14日(木)・15日(金)・16日(土)

会場 : 日本科学未来館(東京・お台場)

入場無料(常設展示の見学には入館料が必要です)

詳しくは… <http://www.g-expo.jp/index.html#>

●GIS学会主催シンポジウム詳細 → 10ページ

◆ 企画セッション紹介 ◆(入場無料)

企画セッション(1):レジリエントな国土・地域社会の構築のための地理空間情報の活用

10月26日(土)9:30-11:10 / 会場A(519教室)

オーガナイザー:小荒井 衛

我々が生きる国土・地域社会には、様々な攪乱の要素がある。地震・大雨・台風・高潮・津波等のような自然災害、地球温暖化などの気象変動、エネルギー資源の枯渇などがあげられる。こうした攪乱を受けた結果、人口減少、経済活動の減退、生態系サービスの劣化等が生じ、環境・社会・経済の持続性に悪影響を及ぼす。これらの攪乱に対して「しなやかに立ち直れる強さ」を備えた国土・地域社会の構築には、土地や生活者を取り巻く環境の変化を的確にモニタリングし、なお、攪乱を受け入れることのできる受け皿や立ち直れる潜在力を分析する技術が大事になってくる。その技術とは、昨今の情報通信技術の発達を背景にした地理空間情報の活用、分析技術に繋がる。本セッションでは、「レジリエント」な国土・地域社会の構築には、その土地や生活者が持つ潜在力や復元力を正確に分析・評価する技術が大事であるという基礎認識に立ち、地理空間情報を活用分析した国土・地域計画の可能性を海外及び国内の事例を紹介を交えて、ディスカッションするものである。

●講演者(パネラー)

Ye京祿(千葉大学大学院園芸学研究科)

「英国における国土のエリアマネジメントの手法」

上原三知(信州大学農学部)

「地域計画のビッグデータ(エコロジカル・プランニング)の現代的意義 —東日本大震災の自然予測と復興計画への応用—」

杉本直也(静岡県企画広報部情報統計局情報政策課)

「GISによる防災情報の発信とオープンデータへの取り組み」

川上征雄((株)都市未来総合研究所特別研究理事;前国土交通省大臣官房審議官)

「地理空間情報を活用した国土政策の展開」

●総合討論(コーディネーター)

小荒井衛(国土地理院地理地殻活動研究センター)

企画セッション(2):災害対応におけるGISの利活用の新たな可能性を探る

10月26日(土)11:20-13:00 / 会場A(519教室)

オーガナイザー:畑山 満則

防災GIS分科会では、これまでに災害時のGISを用いた支援活動を展開してきた。被災地で活動するとGISを利用すれば効果的と思われる場面に多々出くわすが、その時点では支援活動を行う人材を集めることが難しい。しかしながら、近年では、フリーソフト、オープンデータが整備されつつありこれによりインターネット上での支援活動も積極的に行われるようになってきた。そこで、事前にGISを利用できる課題について議論することで新たな災害対応支援の可能性について探る。

企画セッション(3):災害デジタルアーカイブと空間情報～東日本大震災の被災地による被災地のためのアーカイブ支援～

10月26日(土)14:30-16:10 & 16:20-18:00 / 会場A(519教室)

オーガナイザー:長坂 俊成

東日本大震災では、多くの被災映像等が記録されアーカイブされつつある。災害のデジタルアーカイブスにおいては、映像等の背景情報または関連情報として空間情報や位置情報が利用されるものの、空間情報自体がメインコンテンツとしてアーカイブの対象となるという発想がない。そこで、映像コンテンツの位置参照情報としての空間情報の在り方に加え、災害の記録と検証・伝承等における空間情報自体のアーカイブスの構築と運用や、教育や地域振興等における利活用のあり方(戦略と方法、流通のためのメタデータやAPIの標準化、2次利用のための著作権処理等の法制度、推進体制における官民協働、持続的なアーカイブ活動のための財源確保策等)を巡り、東日本大震災の実践事例や課題を踏まえて、国、被災自治体、研究機関、大学、NPO、民間事業者等をパネリストとして討論する。

企画セッション(4):学生必見! オープンデータで本気で日本を動かそうとする奴ら—起業家から元役人まで—

10月27日(日)9:00-10:40 / 会場A(519教室)

オーガナイザー:嘉山 陽一

2009年のオバマ政権による政策やティム・バーナーズ＝リーのTEDTalkが端緒となったオープンデータは、日本においても「世界最先端IT国家創造(案)」やG8サミットの「オープンデータ憲章」合意など大きな潮流になりつつある。オープンデータには空間情報分野およびこれらの膨大なデータを通して地域の問題解決を試みる若きプレイヤーが必須となる。そこで本セッションは、日本におけるオープンデータへの道筋をこれまで支えてきた仕掛け人が集結し報告を行い、後半にはフロアの学生と共に地域の問題解決に向けたオープンデータの活用アイデアについてディスカッションを行う。オープンデータで日本を変えたいと思う学生はぜひご参加を!

(川島宏一:(株)公共イノベーション代表取締役/Open Knowledge Foundation Japan) ・「公共データ市場の創出を仕掛ける」

【市民・まちづくり】

(和田陽一:国際航業) ・「地方自治体、中から外からどちらが動かしやすい?」

(古橋大地:マップコンシェルジュ代表取締役/OpenStreetMap Foundation Japan副理事長) ・「オープンデータで人と地域と世界をつなげる!」

【技術者コミュニティ】

(関治之:Georepublic Japan CEO/Code for Japan) ・「コーディング力が地域を救う」

(嘉山陽一:朝日航洋(株)・OSGeo財団日本支部) ・「皆が使っているQGISの中の人」

【社会への適応】

(田口仁:独立行政法人 防災科学技術研究所) ・「独立行政法人の研究所から国や地方自治体に働きかける」

【総合討論】

(オーガナイザー・関本義秀:東京大学生産技術研究所准教授) ・「オープンデータを通じて社会構造を知る・身の振り方を考える」

【実践の場】

(瀬戸寿一:東京大学空間情報科学研究センター/アーバンデータチャレンジ東京2013実行委員)

・「公共データを使い倒して、卒論・修論を書こう! 賞金を稼ごう!」

(嘉山陽一:朝日航洋(株)・OSGeo財団日本支部) ・「オープンソースGISまみれのイベント FOSS4G TOKYO/OSAKAへようこそ!」

企画セッション(5):オープンデータと自治体GIS

10月27日(日)10:50-12:30 / 会場A (519教室)

オーガナイザー:青木 和人

行政内部の施設管理業務の効率化等を主体として進められてきた自治体GISは、WebGISの登場により自治体の地域情報発信のプラットフォームも担うようになった。現在、再利用・再配布が可能な行政情報を提供するオープンデータ施策が国主導により進められている。今後の自治体GISには、オープンデータによる双方向の情報連携のためのプラットフォームとしての役割が期待される。自治体GISにおいてオープンデータを活用するには、パッケージ化された事務ツールではなくGISの本質的機能である空間情報の編纂、視覚化、分析、統計処理などの機能と、それらの機能を駆使できる人材の育成が急務である。本セッションでは、これまで自治体GISが担ってきた役割をふり振り返り、整理した上で、オープンデータの展開を前提とした、今後の自治体GISが負うべき役割や課題について、独自取材映像等を交えたパネルディスカッションを行う。

《話題提供》

1. 玉置三紀夫 / GISやオープンデータに向けた、営業視点での展望などをお聞かせします。
2. 小泉 和久 / 自治体情報を集約するデータセンター構想について語っていただきます。
3. 丸田 之人 / 室蘭市がどのような経過や議論を経てGISデータ等のオープンデータ化に向けた取り組みを実現されたのか、また今後の展開について話題提供していただきます。

《パネルディスカッション》

自治体職員有志によるビデオ討議を軸として、先の3件の話題提供者並びに会場の皆さんとディスカッションを行います。特に今話題のオープンデータとGISの関係と今後の展望について議論します。

企画セッション(6):産学連携によるマイクロジオデータの普及と利活用の可能性

10月27日(日)13:40-15:40 / 会場A (519教室)

オーガナイザー:秋山 祐樹

我々は「マイクロジオデータ研究会」と呼ばれる研究会を発足させ、これまでにマイクロジオデータの普及と利活用について産官学の有識者を中心に議論を行って来ました。「マイクロジオデータ」とは「ビッグデータ」の一種であり、位置情報や時間情報を持つビッグデータの総称のことを言います。例えばこれまでも利用されてきた、デジタル住宅地図や電話帳のような空間的精度と網羅性が非常に高いデータや、近年利用可能になりつつある、モバイル統計、GPSログ情報、Webから収集出来る情報など加工余地が高いミクروسケールの非集計データのことを言います。既存の各種統計データでは実現し得なかった時空間的にきめ細やかな計画・解析等への利活用が期待されています。本セッションでは昨年に引き続き本研究会の紹介を行うとともに、マイクロジオデータをを用いた研究を行っている研究者による研究紹介や、今後マイクロジオデータの利活用が期待される領域の実務者などによる講演が行われる予定です。今年は「産学連携」がテーマです。産学連携により現在形になりつつある、あるいは今後発展が期待出来る研究についての講演と、産学の有識者によるパネルディスカッションが予定されています。産学連携によるマイクロジオデータの開発・利活用に関する研究の最先端を知っていただくとともに、研究者同士が持つマイクロジオデータのシーズとニーズを結びつけて活発な議論が交わされることを期待しています。

企画セッション(7):学校教育におけるGIS教材の共有化

10月26日(土)11:20-13:00 / 会場B (512教室)

オーガナイザー:酒井 高正

以下のような3部形式を予定している。

【第1部】「2013年度初等中等教育におけるGISを活用した授業に係る優良事例」表彰式

本学会が主催し教育委員会の責任において審査を行う上記の表彰事業について、「国土交通大臣賞」、「地理情報システム学会賞」、「毎日新聞社賞」の受賞者を招き、表彰式を執り行う。

【第2部】優良事例の発表会

GISを活用した授業を実践している事例について上記の各賞を受賞された教員の方々から、その内容をご紹介いただき、他の学校での実践の可能性等について探る。

【第3部】GIS教材の共有化に関する小シンポジウム

各地で様々な関係者によって取り組まれている学校教におけるGISを活用する実践については、情報を共有し連携を深めていくことが必要である。ここでは、GISを活用した教材の共有化をテーマに、小シンポジウムを行う。パネリストにはNPO「伊能社中」、GIS教育フォーラム関係者などを予定している。

・大島 英幹

教育GISフォーラムによるGIS教材データの共有化

・尾崎正志、田村賢哉

OpenTextMapで誰でも使える教材の共有と伊能社中の活動

企画セッション(8):空間解析入門

10月26日(土)14:30-16:10 / 会場B (512教室)

オーガナイザー:貞広 幸雄

ビッグデータの急速な普及に伴い、空間データの解析に対する需要が高まってきています。空間解析手法はこれまで、地理学や統計学等、様々な分野で開発され、利用されてきています。しかしながら、分野間の情報交換は必ずしも十分ではなく、個々の手法の認知度は必ずしも高くはないというのが実情です。そこで本セッションでは、空間解析手法の幅広い教授を行うことを目的とし、これまでに開発されてきた様々な手法の背景、概略、適用例などを、数名の講師によるレクチャーで、空間解析を専門としない研究者にも分かりやすい形で紹介します。

企画セッション(9):時空間データの形態変換の最前線

10月26日(土)16:20-18:00 / 会場B (512教室)

オーガナイザー:堤 盛人

時空間データの形態変換と形態の効率化は、時空間データを用いる誰しもが直面する極めて一般的な課題である。前者は、面補間とも呼ばれ、異なるデータセットを用いる際にしばしば分析者を悩ます問題への解決方法を提示するものであり、例えば市町村別人口データとメッシュ別緑被率データの分析にあたっての集計単位の統一や、地価調査データと測定局毎の大気汚染のデータを用いた分析にあたってのポイントデータの位置の統一、道路リンク毎の交通量データと交通事故発生地点の分析にあたってのデータの形態の統一などその適用場面は多岐にわたる。一方、後者は、サンプリングデザインとも呼ばれ、そもそものデータ観測の効率化を支援するものであり、厳しい財政状況下において各種統計調査の費用削減や場合によっては調査そのものの中止が求められる中で、必要不可欠な研究である。本セッションでは、特に前者に焦点を当て、時空間データの形態変換に関するこれまでの研究の概要を分かりやすく紹介するとともに、発表者らによる最新の研究についても紹介する。

企画セッション(10):GISCA

10月27日(日)13:40-15:40 / 会場B(512教室)

オーガナイザー:太田 守重

GIS事業分野の担い手として、GIS上級技術者(GISE)資格が注目されつつあるが、当分野の更なる発展を期するためには、個々の経験に基づく知見や新たに開発した技術を共有し、議論する場が欠かせない。また、GISE資格の有効期限は5年間であり、その間に、GIS分野に対して一定の貢献をすることが義務付けられている。このような背景のもと、本セッションは、資格をもつ発表者には貢献の機会を与え、参加者には教育の機会を与えることを通じて、相互研鑽することを目的に、開催するものである。また、GISE資格の取得を目指す人々や興味をもつ人々の参加も歓迎したい。

司会:大伴真吾

13:40~13:52 GIS資格認定制度の現状と課題(大場亨、竹本孝)

13:52~14:04 GIS上級技術者資格制度をより良くするための提言(久保田優子)

14:04~14:16 官民連携(PPP)による地理空間情報の整備・運営スキームの検討(溝淵真弓)

14:16~14:28 地理空間情報を活用した地域課題の発見と共有(山本尉太、政木英一、鈴木久美子、鎌形哲稔、新井邦彦、黒川史子、今井修)

14:28~14:40 地理空間情報の有効活用を追求した災害情報システムの開発と運用および今後の課題(秋田義一、榎本純一)

14:40~14:52 MMSレーザ点群を利用した路面不陸箇所抽出手法(山本耕平、青木一也、西村修)

14:52~15:04 プロキシサーバを利用した地図タイル画像配信の高機能化(嘉山陽一)

15:04~15:40 パネルディスカッション「GIS上級技術者の普及と利活用について」(仮)

コーディネーター:大場亨

パネラー 口頭発表者

◆ ハンズオンセッション紹介 ◆(要大会参加費)

ハンズオンセッション(1):都市計画とFOSS4G

10月26日(土)14:30-16:10 / 会場G(522教室)

オーガナイザー・講師:馬場 美彦

2008年に国土交通省によって発行された「都市計画GIS導入ガイド」によりますと、都市計画分野におけるGISの導入は、まだまだ限定的であると言わざるをえません。人口100万以上の自治体においては、GISは90.0%導入されていますが、全体では9.6%にすぎません。地図の作成・出力の業務に最も多く利用され(24.4%)、続いて都市計画制限等の閲覧・照会(14.0%)、計画立案支援(13.5%)、図書作成(13.0%)、分析・シミュレーション(10.4%)、台帳等の情報管理(10.2%)等に利用されています。これまで地方自治体と関わってきたなかで、GISデータをまったく保有していない自治体は皆無でした。その一方で、多くの台帳は紙ベースで管理されており、住宅地図に印をつけ、別の台帳では住宅地図のページ番号を記入しておく、といった使い方をしています。このような管理をしている人たちに、データを QGIS 上にプロットして、その下にウェブ地図などを重ね合わせると、その使い勝手のよさにみな驚きます。しかも、それがすべてフリー&オープンソースソフトウェア (Free and Open Source Software, FOSS)で行えるのです。しかし、これらのツールが簡単ではないことも事実です。本ハンズオンでは、都市計画やその関連分野における FOSS ツールの使い方の基礎を習熟することを目的として開催します。

ハンズオンセッション(2):PythonでGIS

10月27日(日)10:50-12:30 / 会場G(522教室)

オーガナイザー・講師:小林 哲郎

Pythonはオープンソースのオブジェクト指向スクリプト言語です。ESRI社が提供するArcGISのジオプロセッシングツール群はPythonスクリプトを用いて扱うことが可能であり、Pythonを利用したGISデータの処理、データ分析、空間モデル作成などへの応用が盛んに行われています。本セッションでは、PythonをArcGIS上で扱うための基本的な手順を紹介し、簡単なスクリプトを作成していただくことでPythonの利用方法を広く知っていただくことを目的とします。

◆G空間EXPO2013 学会主催シンポジウムのお知らせ (入場無料)◆

マーケティングGISの最前線:ジオデモグラフィクス2010(仮)

協力:文部科学省科学研究費助成金基盤研究(B)「GISベースの日本版センサス地理学の確立とその応用に関する研究」(代表者:矢野桂司)

日時: 11月14日(木) 10:30-13:00

会場: 日本科学未来館(イノベーションホール)

本シンポジウムでは、最新の平成22年国勢調査小地域統計を用いた日本のジオデモグラフィクスを紹介する。人々が住む場所による人口の分析で、町丁目レベルでの地区類型であるジオデモグラフィクスは、欧米におけるGIS研究・地理情報科学の重要な研究トピックスの1つである。

本シンポジウムで、学問的コミュニティとビジネス・コミュニティの視点から、ジオデモグラフィクスの様々な活用方法を議論する。

矢野桂司(立命館大学)「ジオデモグラフィクスの新展開」

横田渉(株式会社JPS)「ジオデモグラフィックデータ活用による顧客分析とGISマーケティング」

田中孝(エクスペリアンジャパン株式会社)「2010年国勢調査版Mosaicの開発と改良ポイント」

酒井嘉昭(日本GMAP株式会社)「居住者特性からみた消費行動の違い」

渡邊基弘(ESRIジャパン株式会社)「実践的ジオデモグラフィックデータの活用」

橋克憲(株式会社パスコ)「民間企業でのジオデモグラフィックスデータの活用事例と将来展望」

◆ ポスターセッション一覧 ◆

ポスター紹介セッション : 10月26日(土)11:20~13:00 会場G(522教室)

コ ア タイム : 10月26日(土)11:20~14:30 西校舎1階通路

ポスターセッション賞投票時間 : 10月26日(土)9:00~10月27日(日)13:40<午後のセッション開始時間まで>

投票用紙 : 大会パンフレット最終ページを、切り離して投票してください

投票箱設置場所 : 西校舎1階ロビー 受付前

ポスター番号(審査の際に参考にしてください)

1	通学路における不安箇所データの取得と活用	王尾 和寿, 温井 達也
2	高知県の施設園芸を対象としたクリーニングクローブによる潜在的窒素回収量の推算	松岡 真如, 藤原 拓, 永禮 英明, 前田 守弘, 山根 信三, 近藤 圭介, 安武 大輔
3	近隣地域の社会経済的状況と生活習慣病リスク要因の関連	中野 裕紀, 北村 明彦, 木山 昌彦, 岡田 武夫, 本庄 かおり, 中谷 友樹, 磯 博康
4	日本庭園を活用した子どもの空間的思考力向上の試み:六義園を対象として	湯田 ミノリ, 雨宮 護, 浅見 泰司, 土屋 萌
5	出生力変動の地域格差とその要因—2005年と2010年の差に着目して—	鎌田 健司, 岩澤 美帆
6	アジア高山域における氷河データベースにより評価されたアジアの氷河の空間分布特性について	縫村 崇行, 坂井 亜規子, 谷口 圭介, 永井 裕人, Damodar Lamsal, 津滝 俊, 小澤 亜紀, 保科 優, 岡本 祥子, 竹中 修平, 大宮 哲, 常松 佳恵, Phuntsho Tshering, 藤田 耕史
7	建築確認申請データを用いた徳島都市圏における居住環境の評価	伊勢 千尋, 渡辺 公次郎, 近藤 光男
8	プローブデータ解析システムの開発とその活用案について	藤井 琢哉, 阿部 清貴, 吉兼 理説, 西方 誠悠, 富田 正裕, 野口 良彦, 村崎 充弘
9	日本アルプスにおける大規模崩壊地・地すべりの分布と地形・地質との関係	齋藤 仁
10	MoranのI統計量の裾野分布に関する一考察	山田 育穂, 岡部 篤行
11	迅速測図のGIS解析手法の確立とインターネット公開による新たな活用の発見	D. S. Sprague, 岩崎 亘典
12	地域間による生活保護率差異の要因と空間分析	村上 和隆, 高橋 孝明
13	古地図とモバイル端末を用いた地域学習支援アプリケーション—近世後期の鳥取城下町を題材に—	塚本 章宏, 柴田 祐, 来見田 博基, 高橋 徹, 鳴海 邦匡
14	広島県における人口動態の地域的特徴に関する研究—集約型都市構造検討へ向けた基礎的分析—	畑森 翔紀, 田中 貴宏, 稲地 秀介
15	GISを用いたリアルタイムの出入港操船支援システムの基礎的研究	Shinchi Ryu, 塩谷 茂明, 笹 健児
16	HTML5を用いた交通事故報告作図システムの開発	根元 裕樹, 奥野 守
18	日本列島の流域区分と中央分水嶺の抽出—中央分水嶺ロングトレイル構想に向けて—	原 雄一, 片山 篤
19	ランドスケープ特性評価の視点から見た日本の地域特性区分	Kyungrock Ye, 小荒井 衛, 水内 佑輔, 野嶋 太智
20	利用パターンと周辺環境に基づく場所推薦システムの提案	笹尾 知世, 木實 新一, 大野 航, 少路 健太
21	Googleストリートビューのパノラマ画像を利用した天空率算出システムの提案	西尾 尚子, 伊藤 史子
22	地域防災を支援する情報システム「地域防災キット」の開発	田口 仁, 李 泰榮, 臼田 祐一郎, 長坂 俊成
23	通信販売の拡大による競合店舗の均衡配置と非競合店舗の最適配置の変化	小澤 誠明, 岸本 達也
24	携帯電話のGPSログデータを用いた人々の行動パターンの分類	西村 隆宏, 秋山 祐樹, Teerayut Horanont, 柴崎 亮介, 関本 義秀
25	詳細な地理情報やWEBから収集したデータを用いた商店街の特性分類	河地 薫子, 秋山 祐樹, 上山 智士, 柴崎 亮介
26	時空間的街区特性から見た住宅用太陽光発電導入ポテンシャルの評価	小林 知記, 巖 網林, 仙石 裕明
27	人々の流動再現に向けたオープンな鉄道インフラデータの構築	金杉 洋, 関本 義秀, 檜山 武浩
28	試験運用を踏まえた野外調査記録作成支援ソフトウェアの機能強化	原田 豊, 齊藤 知範, 山根 由子, 細田 耕一, 雨宮 護
29	高等学校地理AにおけるGISを活用した防災教育教材提案—東京都西東京市を事例として—	佐谷 栄里
30	Mapping the surface temperature change in Hokkaido from 1950–2000	Shenyan Zhang, Wangling Yan
31	地形プロセスモデルによる山地流域の分類手法の検討	池見 洋明
32	災害の視点から見た日本の地理的地域特性区分	小荒井 衛, 中埜 貴元, 芮 京祿